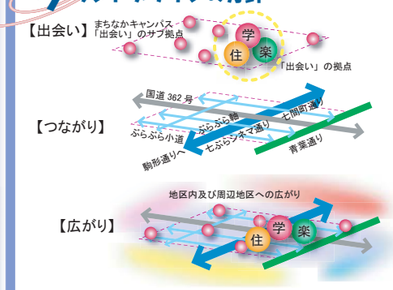
地区の位置づけ

駿府城下で旧東海道筋にあり、商業地と住宅地との接点にある本地区は、今日までのさまざまな人の往来による「出会い」と「つながり」が賑わいを創出するとともに、独特の大衆娯楽文化を発展させてきました。

そのため、本地区は商業と文化が程よく融合し、回遊性を持った『文化的繁華街』として形成され、静岡市の中心市街地の一角としての役割を担ってきました。

しかし、本地区において賑わいや娯楽・文化の中心であった映画館の移転を契機に、これからの時代に応じた新しいまちづくりが求められています。

グランドデザインの方針



機能配置の考え方

賑わいや娯楽・文化の中心であった映画館跡地に加え、多くの交通が行き交う国道 362 号と、七間町通り～七ぶらシネマ通りの交差点周辺を、さまざまな人が集まり交流する「出会いの拠点」と位置づけ、「学」「楽」「住」の機能を配置します。

また、「出会いの拠点」の機能を補完するとともに、これと連携する「サブ拠点＝まちなかキャンパス」を地区全体に配置し、人の「出会い」と「つながり」を地区内及び周囲に広げていきます。

七間町通り～七ぶらシネマ通りは、周辺の地区とつなぎ、ぶらぶら歩きの中心となる「ぶらぶら軸」と位置づけます。「ぶらぶら軸」と交差する路地は、「出会いの拠点」や「サブ拠点」をつなぐとともに、人との「出会い」をつなげる「ぶらぶら小道」として位置づけます。

出会いを創出・演出するまちづくり

「出会い」を創出するため、「学びの拠点」「楽しみの拠点」「まちなか居住空間」といった「出会いの拠点」整備を行うとともに、出会いを意識できる環境整備と演出を行います。

また、「ぶらぶら軸」と国道 362 号との交差点を「出会いの中心」とし、さらに、「ぶらぶら軸」と「ぶらぶら小道」との交差点を「出会いの辻」として、出会いを意識できる環境整備と演出を行います。

つながりを創出・演出するまちづくり

「つながり」の創出と充実を図るため、新たな交通結節機能を導入し、さまざまな人が地区に来やすくするとともに、周辺市街地との空間的なつながりを演出します。

ぶらぶら軸では、七間町通り及び駿府通りとの連続性に配慮したしたまち並み空間の創出を図ります。また、「ぶらぶら軸」と「ぶらぶら小道」は、拠点から拠点へのつながりを意識できる環境整備と演出を行います。

導入する都市機能の考え方

学んでよし！

次代を担う若者が専門の技術や知識を習得する場を提供します。さらに、さまざまな世代の市民が日々の暮らしを豊かにする生涯学習の機会と場を提供するため、「学びの拠点」を新たに導入します。

楽しんでよし！

静岡ならではの海・山の食材を使った地産地消文化を広める機会と食を通した楽しみの場を提供するため、「食の拠点」を新たに導入します。さらに、市民や来街者の「ハレの場」として利用できるイベント空間を創出します。

住んでよし！

少子・高齢社会の進展を踏まえ、若者・子育て世代・高齢者をはじめとする多様なライフスタイルや居住ニーズに幅広く対応するための「まちなか居住空間」を新たに導入します。

デザインコンセプト

ぶらぶら

七間町通り～七ぶらシネマ通りは、歩きやすく視線に緩やかな変化を与え、ぶらぶら感を楽しめる広場のような“みち”を演出します。

建物

建物はできるだけセットバックし、歩道と一体となった人のたまり空間を設け、にぎわいのランドスケープを演出します。

建物の高さは、その存在を主張しすぎないよう周囲のまち並みとの調和を図った高さとします。

緑と花

隣接する緑豊かな青葉通りとの連携を図ります。

広場や辻など地区全体に、季節を彩る緑と花を配置し、緑豊かなまち並みを演出します。

色彩

静岡の歴史・文化を踏まえ、品格とにぎわい、落ち着きと活気のバランスがとれた奥行のある色彩とします。

学んでよし！

サテライトキャンパス × 市民大学 × まちなかキャンパス

「まちづくり大学しぞーか」で静岡の今昔と未来を学ぶ！

静岡県内の大学等のサテライトキャンパスや専門学校といった次代を担う若者が技術や知識を学び習得する「ハイエンドな専門教育」と、市民大学のようなさまざまな世代の市民の「日々の暮らしを彩るさまざまな学び」を提供する「学びの拠点＝まちづくり大学しぞーか」を整備します。

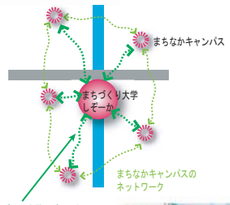
ここでは、地域や静岡の歴史・文化に根ざした「しずおか学」や「映画・芸術・文化」「お茶・食」「まちづくり」「おもてなし」「ものづくり」「子育て」「健康」などユニークな講座を設け、地域や静岡の歴史・文化を守り育むとともに、市民の生活の質を高め、心を豊かにする学びを提供します。講師は、大学や専門学校と連携するほか、各業界で活躍している方々や商店街の店主などを招き、生きた学びを展開します。

学んだ人々の実践・成果のお披露目の場として、地区内の駐車場や空き家などを活用した「サブ拠点＝まちなかキャンパス」を分散して配置したり、地域や静岡の魅力を発信する地域ボランティアである「七ぶらまちなかコンシェルジュ」として活躍することで、人の「出会い」と「つながり」を地区全体、まちなか全体に広げていきます。

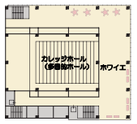
また、若者だけでなく多世代が集い・学ぶ生涯学習の拠点として、「市民の学びの情報」を一元化して発信します。

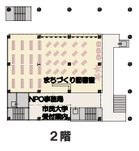
なお、本地区で培われてきた歴史・文化を伝えるシンボルとして、「オリオン座の壁画」を市民大学棟の壁面に移設・保存します。

学びの拠点のグランドデザイン

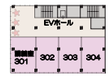


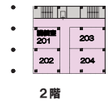
＜市民大学棟＞

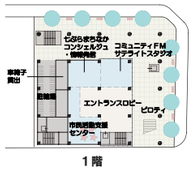


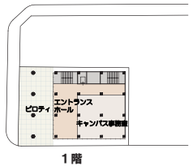


＜キャンパス棟＞









楽しんでよし！

マルシェ × 商店街 × まちづくり大学しぞーか

「しぞーか まるごとマルシェ」でおいしい静岡をまるごと味わう！

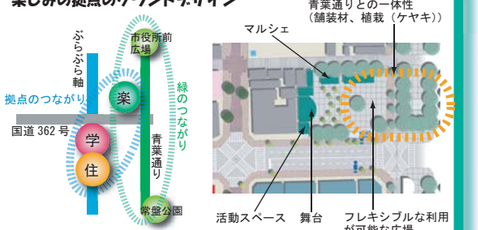
静岡ならではの海・山の食材を使った地産地消の食文化を広める場の提供と、人々が楽しく交流するために、青葉通りの中間点となる国道 362 号と交差する位置に、「食の拠点＝しぞーか まるごとマルシェ」を整備します。

ここでは、かつて物資交流の中心地であった「安倍の市」を現代風にアレンジした常設市場（マルシェ）で、静岡市内の豊かな海・山の食材やそれらを使った料理などを提供するほか、県内のおいしい特産品の産直市を開催し、食を通じて“しぞーか”をまるごと楽しむことができる空間を創出します。

また、「まちづくり大学しぞーか」で学んだことを披露する「ハレの場」となる舞台や活動スペースを設置するとともに、飲食用のテーブルやイスを可動式にすることで、市民活動や各種イベント等に、フレキシブルに空間活用できるようにします。

青葉通りと同じケヤキ植栽や舗装とすることで、青葉通りとの空間的なつながりを演出します。

楽しみの拠点のグランドデザイン



住んでよし！

子ども × 子育て世代 × 高齢者

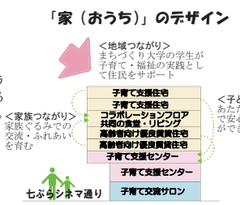
「しぞーかミクスチャーハウス」で交じって暮らす！

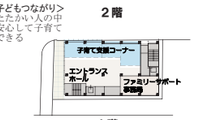
少子・高齢社会の進展を踏まえ、若者・子育て世代・高齢者をはじめとする多様なライフスタイルや居住ニーズに幅広く対応するため、まちなかで安心して快適に暮らせる住環境を提供する「まちなか居住空間＝しぞーか ミクスチャーハウス」を整備します。

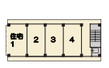
ここでは、「高齢者向け優良賃貸住宅」、「子育て支援住宅」、「子育て支援センター（現在のセンターを移転拡充）」、待機児童解消のための「おうち保育園」をあわせて配置します。集合住宅でありながら、共同の食堂やリビング、屋上菜園もあり、子どもから高齢者までがいきいきと安心して家族のように暮らせる「家（おうち）」の空間を創出します。

また、「まちづくり大学 しぞーか」と連携として、子育て世代も気軽に学べる機会を確保するため、子育て支援センターによる託児サービスを提供するほか、学生が子どもや高齢者とのふれあいを通じて学べるキャンパスとしても活用していきます。

「家（おうち）」のデザイン







つながってよし！

歩行者 × バス × 自転車 × 自動車

ぶらぶら歩きやすく、交通結節機能があるまち

本地区内において、誰にでもぶらぶら歩きやすい交通環境整備を行います。また、中心市街地の玄関口として「歩行者」「バス」「自転車」「自動車」などの多様な交通の結節機能を充実し、本地区及び中心市街地への来街者の誘導を図ります。

地区をぶらぶら歩きやすくする

①ぶらぶらできる七ぶらトランジットモール

現在、七間町通りでは休日歩行者天国が実施されていることから、七ぶらシネマ通りにおいて、休日は路線バスのみが通行可能なトランジットモール化を実施し、ぶらぶらできる歩行者空間の創出と、歩行者の流れの連続一体化を図ります。

②快適にぶらぶらできる空間の創出

ぶらぶら軸では、歩車道間の段差をなくすことによって、ぶらぶらできる空間を創出します。街路樹をランダムに配置して歩行者の動線と視線に緩やかな変化を与え、ぶらぶらを促すきっかけづくりを行います。

また、「出会いの中心」やまちなかに点在する空地を利用して緑のあるたまり空間を適所に配置し、憩い、休みながらぶらぶらできる快適な空間を創出します。

③誰もがぶらぶらできる移動サポート機器の貸し出し

「出会いの拠点」内に設置する「七ぶらまちなかコンシェルジュ」において、シニアカー、シルバーカー、車いす、ベビーカー等の移動サポート機器の貸し出しサービスを行い、誰もがぶらぶらできるようにします。

④好きな方向にぶらぶらできる スクランブル交差点化

国道 362 号を挟んだ南北方向の歩行者の移動を円滑にするため、七間町交差点と同様、国道 362 号と青葉通り・人宿町通りとの交差点をそれぞれスクランブル化し、好きな方向にぶらぶらできるようにします。

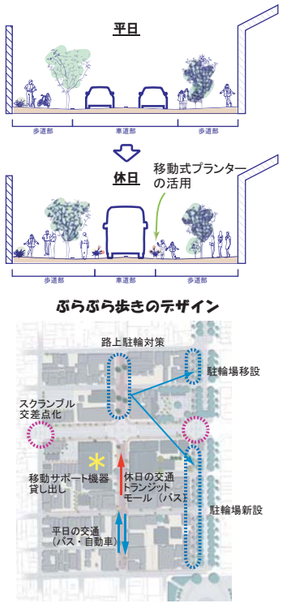
⑤ぶらぶらしながらも印象に残る 緑と花のアイコン設置

「出会いの辻」や商店の店先など、歩行者の目印となる場所には、特徴のある樹木や草花をアイコンとして設置し、ぶらぶらしながらも印象に残りやすい歩行者空間を創出します。

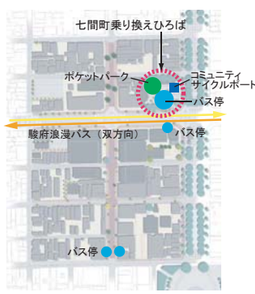
⑥ぶらぶらしやすくする路上駐輪対策

「ぶらぶら軸」である七間町通り～七ぶらシネマ通りを全面路上駐輪禁止区域とするとともに、青葉通りに駐輪場を移設・新設した上で有料化することで、平日・休日問わずぶらぶらしやすい歩行者空間を創出します。

ぶらぶら歩きのデザイン



乗り換えのデザイン



地区の交通結節機能を充実する

①双方向運行で便利な駿府浪漫バス

現在、静岡駅方面への一方向運行となっている駿府浪漫バスを双方向化し、既存の路線バスとあわせて、静岡駅と本地区をつなぐバスネットワークの強化を図ります。

②バス待ち時間も楽しい七間町乗り換えひろば

「しぞーか まるごとマルシェ」に隣接する七間町バス停においては、緑の空間としてのポケットパークとデザイン性に配慮した上屋を設置するとともに、バスロケーションシステムを活用してバスの接近・到着を音楽で知らせるなど、バス待ち時間も楽しく快適に過ごせる「七間町乗り換えひろば」として整備します。

その他のバス停においては上屋のみを設置し、空間的な広がりのある快適なバス待ち環境を提供します。

③コミュニティサイクルでらくらく移動

地区内をはじめ、来街者の中心市街地での移動をサポートするため、七間町バス停にコミュニティサイクルポートを設置し、来街者への自転車の貸し出しを行います。

また、コミュニティサイクルによる中心市街地での回遊性を高めるため、コミュニティサイクルポートの設置・運営は、中心市街地全体で取り組むこととします。

④民間駐車場の立体化・共同化

自動車での来街者の他の交通手段への乗り換えを促進し、本地区を一つの起点とした、中心市街地全体の歩行者・自転車回遊ネットワークの形成を図るため、既存の民間駐車場の立体化・共同化等を促進します。

事業手法の提案　～敷地整序型区画整理～

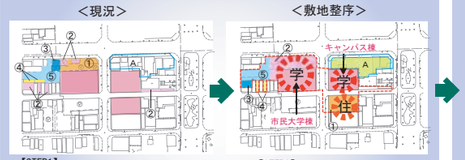
事業採算性を考慮した使いやすい敷地の確保＜敷地整序型区画整理＞

移転する映画館は３つの敷地に分かれており、多くの交通が行き交う国道 362 号には面していません。また、その周辺は空地化や駐車場化が散発的に発生し、土地利用の空洞化が懸念されています。

このようなことから、映画館周辺の区域を対象に「敷地整序型区画整理」を導入し、換地手法を活用した敷地の集約・入れ替えを行い、民間活力等による事業採算性を考慮した使いやすい敷地を提供します。

特に、国道 362 号は、多くの交通によって「誰もが目にする通り」であることから、この路線に面して「まちづくり大学しぞーか」の敷地を確保し、まちの顔づくり、「出会いの拠点」機能の強化を図ります。

敷地整序と建築物整備との一体的な施行イメージ



段階的まちづくり

【STEP1】
生まれ変わりのシンボルとなる拠点施設と「ぶらぶら軸」の整備（公共・民間の協働）

【STEP2】
拠点施設周辺の道路等の周辺施設整備

【STEP3】
エリアマネジメントによる住民・事業者・学生が主体となったまちづくり活動の継続

●国道 362 号沿道の美しく統一感のある沿道環境の創出＜地区計画＞

「しぞーか まるごとマルシェ」の対面となる国道 362 号沿道については、「しぞーか まるごとマルシェ」や「まちづくり大学しぞーか」の整備とあわせて一体的な環境整備を行うことで、「出会いの拠点」にふさわしい沿道環境が形成されます。

そこで、この沿道に安全で快適な歩行空間の創出と良好なまち並み景観の形成を図るための「高度利用型地区計画」を指定し、各建物の個別の建替や共同建替、協調建替に応じて段階的にセットバックやファサード整備等を行い、美しく統一感のある沿道環境を創出します。

●まちも人も成長する段階的まちづくり

本地区の整備は、新たなまちのシンボルとして、拠点となる映画館跡地整備と「ぶらぶら軸」の整備をリーディング事業として実施し、その後、「まちなかキャンパス」や「ぶらぶら小道」、「出会いの辻」等の環境整備を進めます。それに伴い、本地区に関わる様々な人々が「出会い・つながり」を創出・演出する計画づくりや維持管理に積極的に関わることにより、ハード整備だけでなく、まちづくり意識を醸成する「人づくり」が進み、まちと住民等がいっしょに成長していくと考えます。

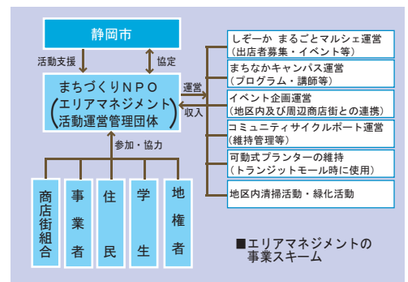
エリアマネジメント

住民主体による継続的なまちづくり活動の実施＜エリアマネジメント＞

まちづくりNPOの設立

本地区の新たなまちづくりが進むと、当初は目新しい施設に関心が持たれ、賑わいが生まれると考えられます。その賑わいを一過性のものとせず、継続的に賑わいのあるまちとしていくためには、そこで暮らす人々が積極的にまちづくりに関わり、まちをつくり、育てていくことが必要です。

そこで、この新たなまちづくりを契機に、持続的なまちづくりを実践していく組織として、「七間町の明日を考える会」を中心に、「まちづくり大学しぞーか」の学生、「しぞーかミクスチャーハウス」の住民、地元商店主、市民等の様々な主体が参加・協力するまちづくりＮＰＯの設立を提案します。



■エリアマネジメントの事業スキーム

まちづくりNPOのしごと

まちづくりＮＰＯは、本地区のまちづくり活動を計画し実践するエリアマネジメント活動の運営管理団体として、「しぞーか まるごとマルシェ」の出店・イベントの運営や「まちなかキャンパス」・「コミュニティサイクルポート」・「七ぶらまちなかコンシェルジュ」等を運営し、利用者や出店者等からの収入を運営資金として活動を継続します。

また、このＮＰＯは、本地区に新しい「出会い」と「つながり」を市民に提供する活動を楽しみながら創造していくことにより、「本地区並びに七間町全体のファン」を増やし、次代へ「つながり」続けるまちづくりを行います。

さらに、ＮＰＯ活動については、静岡市との連携強化（協定締結・活動支援）を図るとともに、中心市街地における様々なまちづくり活動と連携し、つながりのあるまちづくりを行います。

協働のまちづくり